

○ 長崎・島原農業高がカイハツミートを訪問、TOKYO Xの枝肉・脱骨作業を見学

修学旅行で東京を訪れている長崎県立島原農業高等学校の2年生が東京ブランド「TOKYO X」の見学のため17日、神奈川・相模原市の日本カイハツミートを訪問し、TOKYO Xの枝肉や脱骨作業などを見学した。訪問したのは農業科学科の生徒36人。TOKYO X-Associationの植村光一郎会長(ミートコンパニオン常務執行役員)から、ロース芯の面積や外層脂肪、内層脂肪の厚さ、アニマルウエルフェアや安全・安心などTOKYO Xの理念・ブランド戦略など説明を受けた=写真。



員)から、ロース芯の面積や外層脂肪、内層脂肪の厚さ、アニマルウエルフェアや安全・安心などTOKYO Xの理念・ブランド戦略など説明を受けた=写真。

同校がTOKYO Xを見学するのは今年で3年目。同校山田善光教諭によると、これまで畜産試験場などで育種改良などの見学が中心だったが、カリキュラムにアグリビジネス科目もあり、今回は家畜の育種・生産から加工・流通、販売ま

での一連の流れやTOKYO Xのブランド化やマーケティング戦略などについて広く学ぼうと、今回の見学に至ったもの。農業科学科には作物・農業機械コースや社会動物コース、産業動物

(大動物)コースの専攻があり、授業の一環として地元と畜場を訪問して実際のと畜解体作業やと畜検査なども見学しているという。当日も生徒は慣れた手つきで白衣に着替え、植村会長の話に熱心にメモを取り、枝肉のサシの入り具合など真剣に見入っていたほか、TOKYO Xの枝肉引取価格が1kgたり700円という説明には皆驚きを見せていた。

TOKYO X-Associationでは、小学生たちに枝肉の脱骨作業を披露するなど食育活動に力を入れているが、修学旅行生から訪問を受けるのは初めてのこと、当日はTOKYO X生産組合の中村豊会長も駆けつけ、生徒たちと交流。枝肉見学の後は横浜市の暖らん亭に移動し試食も行った。植村会長は「今後も活動のひとつとして食育活動を重視したい。地元の相場ではいま上物でも351円だったというが、生徒には特にTOKYO Xがどのようにブランド化し、付加価値を付けてきたのかを知ってもらいたい」と話している。

○ ブタゲノム概要解読完了など研究成果10大トピック選定—農林水産技術会議

農林水産技術会議事務局は、2009年農林水産研究成果10大トピックスを選定した。畜産関係では、ブタゲノム塩基配列の概要解読完了など4事例が入っている。これは、民間、大学、公立試験研究機関、独立行政法人の研究成果で、この1年間に新聞記事になったものの中から、内容に優れ、社会的関心が高いと考えられる成果10課題を選定したもの。

畜産関係で選定されたのは、△米粉や飼料用米への利用が期待される九州向け水稻多収穫

新種「ミズホチカラ」を育成(農研機構九州沖縄農業研究センター)、△ブタゲノム塩基配列の概要解読完了、美味しく安心できる豚肉生産や医療用モデルブタ開発に加速(農業生物資源研究所などの国際研究チーム)、△飲むワクチンを可能にする豚への免疫付与技術の開発、一度で複数の感染症に対応することが可能に(農研機構動物衛生研究所・微生物化学研究所)、△伝説の種雄牛「安福」号をクローン技術で復活(岐阜県畜産研究所・近畿大学)の4事例。

○ 上位4位まで不動、ポークビッツが9位に浮上—11月ソーセージ

流通システム開発センターは、POSデータによる11月の畜肉ソーセージの売れ筋商品ランキング(全国のスーパー・生協等390店舗の集計)をまとめた。51位以下を含む総販売金額は3億3,825万円、個数は120万617個だった。

1店平均86万7,308円(前月比4万1,755円減)、3,079個(148個減)。平均単価は281.7

円(前月281.7円)となった。ベスト3は、①シャウエッセン170g×2、②アルトバイエルン145g×2、③燻製屋熟成ウインナー95g×2。上位4位まで不動だったほか、8位だったシャウエッセン179gが11位に後退したほかはベスト10内は顔ぶれが変わらなかった。ポークビッツ90gが11位から9位に順位を上げている。(9面資料欄)